



氏子がつくる御柱祭



いざ出陣の騎馬行列

御柱祭の里曳きの華として披露されるのが騎馬行列です。総勢100名を超える行列は、殿様役を中心として、露払いを先頭に、色傘、手槍、御箱、長柄槍、御小姓、赤熊、芸傘、草履取りと続きます。諏訪大社上社のお膝元にある神宮寺騎馬保存会は、鎌倉時代からの騎馬行列の伝統を今に引き継ぎます。五味寛雄会長は「御柱祭の年前から準備を始め、その日が近づけば、毎日のように所作の練習をします」と言います。また同会は、毎年9月開催の諏訪大社上社十五夜祭奉納相撲にも携わっており、伝統



文化の継承が地域の絆づくりに役かっています。「誰でも入ってくる方は大歓迎。みんなのチカラで御柱祭を盛り上げていきます」



唄

天まで届く木遣り唄
御柱が曳かれるとき、木遣りの声が響き渡ります。「大勢の氏子たちに力と勇気を与え、みんなの心をひとつにするため、そして安全を願って神様をお呼びするために、天まで届くような甲高い声で唄うのです」と下諏訪町木遣保存会の古田和人会長は語ります。同会は、幼稚園児から80歳代まで約100名の会員を擁して、毎週日曜日に諏訪大社春宮境内で練習に励んでいます。また下諏訪町では、小学校の子どもたちが木遣りをはじめに聞き、魅力にふれる授業をもうけています。「木遣りにも新陳代謝が必要です。親から子へ、孫へ脈々と伝統を受け継がれ、そして諏訪地方の魅力が御柱祭を通して全国に発信できることを信じています」とのことでした。



「神賑い」で魅せる長持

長持と呼ばれる箱に約7〜10mという長い棒が通されています。その前側に2人、後ろ側に1人、地下足袋とハッピー姿の担ぎ手が、長持唄に合わせて独特の所作で棒を揺らしながら歩きます。その動きやスタイルは各地の長持保存会によって多種多様。そして御柱祭のとき、日頃の練習の成果が披露されます。そもそも諏訪における長持の歴史は古く室町時代からの記録があるそう。「長持は、かつては正装で諏訪大社への寄進や神事の道具を運んだりしましたが、時代とともに、地域のみんなに御柱祭を盛り上げる『神賑い』の役割へと変わりました」と下諏訪長持保存連絡協議会直前会長の増澤哲さんは語ります。諏訪の人々が技を継承しているからこそ、観客も楽しめる祭りになったのです。

持

観

振り向けば、
大自然のふところ



食

舌で喉で鼻で、
諏訪を味わう
御柱祭の舞台となる諏訪地方6市町村は、ご当地ならではの美味しい「食」で観光客をおもてなしいたします。まず、お祭りにかかせないのが「日本酒」。岡谷市、下諏訪町、諏訪市、茅野市に9つもの蔵元があり、諏訪地方は酒どころとして有名です。八ヶ岳や霧ヶ峰の清涼な伏流水によって仕込まれた、数多くの銘酒を現地で一献。そしてお土産に持ち帰って、じっくりと堪能あれ。
また諏訪湖周辺は、食通を唸らせる「うなぎ」の名店が多いことで知られています。さらに地理的に当エリアは標高700m以上と高く、その冷涼な気候や寒暖差によって「高原野菜」「お蕎麦」が格別な滋味を得ながら、育まれています。「寒天」や「お味噌」を始め、「鯉」「わかさぎ」等々伝統の加工食品にも定評があります。



湯

神代から、
癒やしの名湯
諏訪地方の温泉は、神話の時代から語り継がれ、多くの人々に愛されてきました。温泉エリアは、大きく以下の3つに分けられます。
■上諏訪温泉は、諏訪湖東岸に広がる信州有数の大温泉郷。全国屈指と言われる豊富な湯量を誇り、大型ホテルや旅館等が軒を連ねる温泉街があります。湖畔散策では足湯や間欠泉も楽しめます。
■下諏訪温泉は、江戸時代に中山道と甲州道の交点として栄えた宿場町の温泉です。諏訪大社下社のお膝元であり、昔ながらの風情を醸し出す旅館や気軽に立ち寄り共同浴場で温泉を堪能できます。
■蓼科温泉・奥蓼科温泉は、標高1200mを超す高原に位置しています。ホテル、旅館、ペンションなどの温泉施設が点在。武田信玄の隠し湯伝説が知られ、近代以降は保養地としても賑わってきました。



御柱祭を堪能したあとは、ゆつくりと諏訪地方を周遊しませんか。諏訪大社から少しだけ足を伸ばせば、八ヶ岳山麓を始め、蓼科高原、白樺湖、原村、富士見町など大自然やアクティビティ、おしゃれなカフェがあり、リゾート地として観光客を待っています。ドライブ好きなら、霧ヶ峰、車山高原をめぐるピーナスライン。日本離れた風景のなか、快適なツーリングが楽しめます。さらに絶景が大好きなら、とっておきのビューポイントをご紹介します。まずは、上諏訪駅からクルマで約10分の立石公園。湖畔に沈む夕焼けが美しく、アニメの聖地としても有名です。北八ヶ岳や車山高原、富士見ではグリーンシーズンでもロープウェイ等が利用できます。一気に山頂へアクセスすれば、360度のパノラマが圧巻です。

おもてなしに歴史あり